

認知症支援のニーズについて		資料4-2
分類（キーワード）	意見を聞いた場	内容
新しい認知症観 (認知症のイメージ)	地域ケア会議	認知症の理解の不十分さ、マイナスのイメージから認知症の人にやさしいまちとは言えない。認知症当事者・地域住民と意見交換をしながら「認知症とともに生きるまち」「認知症にやさしいまちとはどんなまちか」を考える必要がある。
	オリジンDカフェ	家族介護者より、「認知症になったからと、自分の家族（認知症本人）が周囲の人に今までと別人のように対応されてしまうのが、本当に辛かった。本人は何も変わっていないのに」と話していたのが印象的であった。
	Dカフェ グランベリーパーク店	最近の認知症に対する地域住民の見方が5～10年前に比べて変化してきていると実感するという意見があった。周りに認知症の人が増えてきて、接する機会も多くなったので、認知症と診断されるまでと同じように接する人が増えてきたからではないかとの意見があった。
	本人の会	参加者である認知症ご本人から、「認知症だから」と差別する人がいることが問題であるという意見が上がった。 また、認知症である自分の意識と、周囲のイメージにギャップがあると意見が上がった。世の中の認知症に対するネガティブなイメージが先行しているのではないかという意見も出た。
	まちだDサミット	認知症の方々と共に生活するには、地域の人々が新しい認知症観を持ち、認め合い、できることをサポートしたり、できないことを手伝ったり、見守ったりといった、お互い助け合える関係性が築けることが必要であると感じた。
本人の集い、相談の場	雀のお宿	当事者の一人が「一人だといけないけれど、ここに来ている皆で行って帰ってこれたら私も安心だし、家族も安心する。」と話す。
	Dカフェ パリオ	認知症になることが不安な市民の方で、現在60代前半だが、身寄りがなく、地域に「おひとり様の会」があればいいのにと話す。行政（高齢者支援センター）や地域とつながっていることの大切さを伝えるが、地域のつながりをどのように構築したらよいか悩んでいるとの意見があった。
	Dカフェ（スターバックス）	「ぼくはぼく」のような地域の誰もが出入りでき、居ても大丈夫と思える居場所が近所にたくさんあることや、得意なことができる場所や機会があると良いとの意見があった。
家族、介護者の支援、相談、交流	ゆったりカフェ	サービスを導入しても、介護者のいつまで介護が続くのかといった精神的な負担は大きく、気分転換できる場が必要と感じた。
	Dカフェ 金森	介護経験者からは「お父さんは自分が認知症であることも気づいている。お父さんを認知症の人と捉えるのではなく、父親として接してみてはどうか。」という意見があがる。
	Dカフェ 鶴川	専門職として仕事に関わる分には感情的になることはないが、家族として関わると、ゴールも見えないし、感情的になってしまうと話す。家族介護者が感情的になることは自然なことで、だからこそ息抜きや、愚痴や悩みを吐露できる場が必要と話す。
	Dカフェ 鶴川	それぞれの悩みは異なるが、お互いそういうケースもあるのだという認識ができ、今他の介護者の困りごととその対処方法がすぐに役立つ訳ではないが、様々なケースと対処方法の引き出しを持つことで、いざ同じような場面に遭遇した時の備えになるという意見が出た。
	Dカフェ グランベリーパーク店	参加者の家族介護者から理想と現実の狭間で板挟みになる家族の気持ちをどのように消化すればよいかかわからないといった意見が上がった。
	本人の会	参加者の認知症の人から「家族が元気だと自分も元気でいられる」と意見があがった。

認知症支援のニーズについて		資料4-2
社会参加推進、やりたいことチャレンジ	本人の会	認知症の人が行っている活動や参加できる活動はたくさんあるため、広く周知したい。認知症の人もやりたいと思っていることを発信していく必要がある。 やりたいことは？と聞かれても、出てこないため、具体的な活動を挙げてもらえると、やりたいことが見つかる。
	本人の会	「認知症の人の支援者ではなく、一緒にやりたい人に集まってほしい。」と発言があった。やりたいことがあるのは認知症の人も、そうでない人も同じであるため、支援される、支援するという形でない関わりが望ましいと意見があがった。
	本人の会	「社会参加」と言われると、社会から疎外されているように感じてしまう。「交流活動」等、活動を広げる、活動を発信するという意味の名前に変えた方がよい。
	きらきらオレンジ広袴	近所の方とは長く付き合っている。その為、夫が認知症と診断されてからすぐに日常会話の中でカミングアウトし、元々夫が陶芸教室をしていたので、認知症発症後も通っていた生徒にも事情を伝え、理解を得たと話す。
	Dカフェ ぽっぽ町田店	独居であると自分から外にでないと社会とのつながりが途絶えてしまい、認知症になってしまうのではという話がでる。高齢者のキーワードとして「今日行く、今日用（きょういく・きょうよう）」が大事という意見が出る。これは、今日行くところがある、今日用事があるという意味で、自分から用事等を作り外に積極的に出ていくということを意味している。
	Dカフェ グランベリーパーク店	診断をされると、何かチャレンジする力が弱まるような気がするという話題が上がる。早期に診断は良いことだけど、必ずしもプラスに作用するとは限らないが、本人がもともと好みのものや落ち着く場所等からヒントを得て、自分でやってみたいと思えるようにすることが大切と意見が出る。
認知症サポーターの活動	第13回チームオレンジ忠生 忠生地区認知症サポーター交流会	認知症かなと思う人へのかかわりやどれくらい積極的に関わったらいいのか悩む。気軽にみんなが集まれる場に来れるように誘ってみる。学びたいこととしては、認知症の人や家族の方へのかかわり方を学びたいという意見があがった。
	町田圏域認サポ交流会	認知症にやさしいまちになるには、支援する側にももっと認知症について知識をつけてもらいたい。義務教育に入れる等できたらいいと思う。
早期受診、早期発見	オリジンDカフェ	医師に相談すると、認知機能検査を受けるかと提案されるが、認知症と言われることが怖くて受けられないと話す。
	Dカフェグランベリーパーク	民生委員をしている参加者からは、独居の知り合いが認知症と診断されたが、本人が認められずどうしたらいいのか困っているという話題が上がる。自分で分かっているけども否定したい気持ちから認められないこともあるという当事者目線の話が出る。
	Dカフェ多摩境	兄弟家族と同居している母の認知症について。ものとりれ妄想や夜間せん妄、暴言があり、家庭内で孤立していることが気になっているものの、同居家族や本人が受診の必要性を感じられず、受診やサービスに至らず。
本人の意思決定支援	地域ケア会議	認知症等により意思決定が難しくなった時に備えておくための情報を整理しておく必要がある。
	Dカフェ ぽっぽ町田	デイサービスに行きたくない当事者の気持ちを考えるとどうかという話題が上がり、参加者からは「よくわからないところに入れられるってかわいそうよね。」「本人からしたら、覚えていなくても、一度は説明してほしいよね。」といった回答があった。